



(9) 日本国特許庁 (JP)

①特許出願公開

⑫公開特許公報(A)

昭56—75086

6) Int. Cl.³ A 23 L 2/38 // A 23 C 19/00 識別記号

庁内整理番号 6812-4B 6760-4B 砂公開 昭和56年(1981)6月20日

発明の数 1 審査請求 未請求

(全 2頁)

60チーズ入り飲料の製造法

顧 昭54-151351

②出 願 昭54(1979)11月22日

炒発 明 者 古川真弘

狛江市東野川 4 丁目27番地 4 号

⑪出 願 人 宮坂香料株式会社

東京都中央区日本橋本町1丁目 9番地

明 細 1

1. 発明の名称

20特

チーズ入り飲料の製造法

2. 特許請求の範囲

ナチェラルチーズ、プロセスチーズなどのチーズ類、乳化性物質、天然増粘剤および水を含み、 これらをエマルジョンにして後、加熱殺闘処理を 行なつたチーズ含量 2 ~ 2 0 %にして、p H 5. 5 及至7.0 のチーズ入り飲料の製造法。

3. 発明の詳細な説明

本発明は経日安定性がよく、かつソフトな食感を持つて飲みやすい配合処方によるチーメ入り飲料の製法に関する。

一般にチーズ類はカルシウム、ビタミンB2、ビタミン A などの栄養成分を母害に含み、しかも消化吸収がよいことから多くの食品材料、たとえばデザート類、ペースト状食品、ホイップ状食品材料に多用されてきた。しかし、飲料のかたちとしてはまだ生産されていない。

その理由としてチーメ類は一般に触点の高いも

のが多く、落動しても甚だ粘着性の強いテクスチーとなり、また、乳化を阻害するカルシウム分を多く含むため、安定な親水性エマルジョンはつつくり難く、特に加熱殺菌処理に不安定と思われていたとも考えられる。あるいはチーズ類は固体またはペースト状の形態がすべてであり、パンには料理の配合案材という固定した観念から抜け出せなかつたためとも思える。

本発明者は食べるチーメではなしに飲むチーメ として、その製品化に長期の研究を行なつてきた が、結果として、次に記した配合による製造が安 定性が高く、品質に優れたチーズ入り飲料を得る に演することを見出した。

(1)配合

- ① プロセスチーズおよびナチェラルチーズ などのチーズ類の使用量は、チーズ分として2~20 を含むような飲料組成
- ② チーメ類のエマルジョン化には、乳化性 物質(たとえばグリセリン脂肪酸エステル、

(1)

(E)



特開昭56- 75086(2)

8 0 0

*

黒葉脂肪酸エステルなど)、および天然増 粘剤(たとえばカラヤガム、キサンタンガ ムなど)を使用すること

⑤ 出来たチーズ入り飲料のp H は、5.5~7.0の範囲内にあること。

筒、この配合に加りるに、たとえば砂糖、果汁、香料のどとき具味向上材料および安定助剤を軽加し、美味としたり安定化を高めることも可能である。

(2) 製 法

天然増粘剤を水に分散さたは溶験した液を予め調製し、これに常法通り、テーズ類、乳化性物質その他の原料を加えてホモジナイザーで乳化するのが好ましい。

突 施 例 1.

 プロセスチーダ
 8 0 1

 砂 額
 1 0 0

 ローカストビーンガム(増粘剤)
 1.8

 モノグリセライド(乳化性物質)
 2

 シェガーエステル(乳化性物質)
 1

(3)

p R 、 6. 5 1 日後に分離した。

⑤コントロール p B 無調券

直ちに分離

とれに対し、本実施例の方法では10日以上も分離が見られなかつた。また、得られた製品は、チーズ等有のクセがなく、マイルドであり、チーズ 籐いな人にも好まれる飲料であつた。

爽施例 2.

パエラ・フレーバー

ナチェラルテーズ(チェダー) 1 5 乳化性物質(スパン) 1 0 を 天然増粘剤(キサンタンガム) 8 0 を 水 9 リンゴ彦ナトリウム(pB関ě用) 若 干

実施例 1.と同様な処理でチーズ入り飲料を製造したが、各種のコントロール試料は直ちに、あるいは 2 日後までにはすべて分離を起した。 しかし本実施例の方法で得たテーズ入り飲料は 2 週間以上安定であつた。

孝干

クエン酸ナトリウム(pg調整用) 若 干

上記配合の材料中、ローカストピーンガムを製水中に溶解、次いでモノグリセライド、砂糖、デーズなどを分散、 P B を 6.5 に調整機、ホモジナイザーで乳化した。 とれを耐熱性合成樹脂容器に入れ、 9 0 * × 4 0 分、勤治中で殺菌後、冷却し保存した。

別に観製した各種コントロール試料と、乳化安 定性の比較テストを行なつた結果は次のごとし。

①コントロール 乳化性物質、天然増粘剤無添加 p H、 5.0

直ちに分離した。

②コントロール 乳化性物質、天然増粘剤無添加 p H 、 6.5

直ちに分離した。

③コントロール 乳化性物質無添加

рн. 6. 5

2日後に分離した。

⑥コントロール 天然増粘剤無添加

(4)